

沼津高架 PI プロジェクト勉強会における共通認識

～今後の地域づくりの進め方について～

静岡県知事 川勝平太 殿

平成 25 年 10 月
沼津高架 PI プロジェクト勉強会

勉強会では、鉄道高架化や駅周辺開発、貨物駅移転などに関して、様々な意見を持った参加者が一堂に会して話し合い、今後の進め方について以下の認識を共有した。これらは、どのような意思決定がされた場合であっても、今後の地域づくりを進める上で配慮すべき事項である。県は、以下の事項への対応状況を自己点検しながら、真摯に地域づくりに取り組むべき。

① 何も決まらない状態は最も避けるべき

事業等の停滞が“不幸”を生んでいる現状を鑑み、勉強会の話し合いや市民の意見を十分に踏まえ、期限を設けて速やかに意思決定し、沼津市や鉄道事業者との協議を早急に開始すべきである。

② 現状のまま放置するのではなく、地域づくりを早急に進めるべき

沼津駅周辺地区については、賑わいを生み出す豊かな空間と都市機能の集積、駅南北交通対策を図り、東部地域の拠点にふさわしい地域づくりを早急に進めるべきである。

原地区については、今後の広域アクセス性の向上や地域資源など地区の持つ魅力を最大限に生かし、基盤整備や新たな産業の展開を図り、地域づくりを早急に進めるべきである。

③ 財政へ配慮し、効率的な事業とすべき

将来に渡り財政への過剰な負担が生じないように、財政状況の継続的な検証とコスト削減の努力を怠らず、最大限の効果を生み出せるような事業とするべきである。

④ 沼津市とともに今後とも市民参加による地域づくりを進めるべき

今後の地域づくりにあたっては、県と沼津市が協調し、検討状況に関する情報を市民に公開し、幅広く市民参加の機会を確保しつつ十分な調整を図って進めるべきである。

以上